

入善町教育センター運営委員会

2月12日(火)に第2回入善町教育センター運営委員会を開催しました。

本年度実施した教育センター事業の報告や各学校から寄せられた教育センターの運営に関する要望・改善、2019年度教育センター事業案等について、運営委員の方々に協議をしていただきました。

本年度実施の事業については、参加された方々から概ね参考になったとの評価をいただき、次年度の事業も先生方のご要望にお応えできるようにしていきたいと思っております。

なお、「教育センターの運営に関する意見・要望と次年度へ向けての改善」をまとめた冊子を各学校に配布しましたので、ご一読ください。

小・中学校、高等学校生徒指導協議会

2月14日(木)に第3回小・中学校、高等学校生徒指導協議会を開催しました。

本会の研修テーマ「自己指導能力を身に付けた児童生徒の育成」を目指して、本年度実施した講演会や事例発表、情報交換等についての報告と次年度の事業案について協議しました。また、その後、桃李小学校と入善中学校の事例発表や各学校の現況報告等を行いました。

次年度も、小・中学校及び高等学校との連携の下、発達の段階に応じた連続性のある生徒指導を推進し、自己指導能力を身に付けた児童生徒を育てていくことを共通理解しました。



2019年度の主な研修予定より

◇ 魚津地区教育センター協議会の講演会予定 ◇

講演会名	生徒指導に関する講演会	道徳に関する講演会	外国語活動に関する講演会
期 日	7月31日(水) 午後	8月8日(木) 午後	8月22日(木) 午後
会 場	うるおい館(入善町)	うるおい館(入善町)	うるおい館(入善町)
講 師	一般財団法人日本ペップトーク普及協会 専務理事 浦上 大輔 先生	帝京大学大学院 教授 赤堀 博行 先生	上智大学 言語教育研究センター長 吉田 研作 先生

◇ 入善町教育研修会の予定 ◇

研修会名	入善町学力向上研修会
期 日	6月21日(金) 午後
会 場	うるおい館 イベントホール
講 師	文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 杉本 直美 先生

☆ 新規購入DVDの紹介 ☆

- ◆ みんなの情報モラルⅡ (小学生・保護者向け)
「ゲーム機、スマホの安全教室」
- ◆ みんなの情報モラルⅢ (小学生・中学生向け)
「SNSに潜むリスク」



3月中旬に教育図書・ビデオ・CD-ROM・DVD等の目録を配布します。利用方法も明記しますので、ご覧の上、ご活用ください。



☆ 生徒指導に関する教材の紹介 ☆

小・中学校、高等学校生徒指導協議会の研修費で、生徒指導に関する教材を購入し、各学校に配布しました。

小学校には、「コミュニケーション・アクティブカード」、中学校と高等学校には、「人間関係スキルアップワークシート」を配布しました。どちらの教材も、「月刊 生徒指導」で紹介されていた教材で、人間関係づくりに焦点を当てたものです。是非、ご活用ください。



編集後記

昨今、「人生100年時代」という言葉をよく耳にすることがあります。リンダ・グラットン著「LIFE SHIFT-100年時代の人生戦略」が世界中で話題になり、日本でも広く知られるようになったようです。現在、日本人の平均寿命は男性81.09歳、女性は87.26歳で、今後も伸びていくことが予想されています。中央教育審議会では、「人生100年時代」を豊かに生きていくためには、生涯にわたって自ら学習し、自己の能力を高めていくことの必要性を強調し、一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することを今後の教育政策の中心に据えて取り組むとしています。学校教育には、子供たち一人一人の「よさ」「可能性」を見付け、それを「チャンス」に加え、「自主的・自立的に学び続ける子供」を育成していくことが求められています。そのような主体的な子供たちを育てていくために、次年度も、先生方のニーズに合った研修環境を整え、「学び続けるセンター」でありたいと考えています。

発行：入善町教育センター
〒939-0626

富山県下新川郡入善町入膳 5232-5

うるおい館3階

TEL:0765-72-0009 FAX:0765-74-2792

Eメール: nyuzen-ec@tym.ed.jp

ホームページ: http://www.nyuzen-c.tym.ed.jp



「人は城 情けは味方」

入善町小中学校長会
会長 上島 俊 晴

今から37年前、県庁大ホールで辞令交付を受けた後、自家用車で配属校に向かいました。入善町役場から十数分でやっと着き、緊張しながら人事異動調書を校長先生に渡すと、「あなたの配属校はここではない。隣の学校だよ。」と思ってもいない言葉。顔から火が出る思いで、人事異動調書と着任のしるしの菓子箱を返していただき、急いで本当の配属校へ向かいました。このように、笑い話のような出来事で始まった私の37年間の教員生活では、様々な先輩に助けていただき、教えていただきました。

一番印象に残っているのは、「女子上席」からの毎日の指導。私の授業を毎日観察に来てくださったのです。初任校は学年1クラスの学校でしたので、ご自分のクラスを自習にして、指導に当たっていらしたことを後になって知りました。

さて、自分がその立場にあった時、若手教員の指導にそこまで力を注いでいたのだろうか。自問自答しています。

二つ目は、勤務校以外の先輩教員から、時折指導をしていただいたことです。運動会などの行事の後に各々の学校で「反省会」をした折、たまたま同席した他校の先輩から、「ちょっと話を聞いていけ。」と言われ、様々な話を聞かせていただきました。「町体育大会の審判のこと」、「教師としての心構え」、「生徒指導の本質とは」等々、今になって思えば、どれも有り難い内容ですが、その時には「何故、私に・・・」という思いもありました。学校の枠を超えて「もの」を言うには、とても「力」が必要です。今自分の周りを見回すと、その「力」がある人はいるのだろうか。また、自分は言ってきたのだろうか、このことも心に引っかかっています。

今、学校は大きな変革の中にあります。そんな時期だからこそ、教員同士が互いに教え合い、支え合うことが必要なのではないかと痛切に感じています。

女子上席のように後輩を支える中堅・ベテラン層の存在。自分の知見を伝え合い、共有しようとする教師集団。

教育は、人と人との関わりから始まります。子供と教師の関わりだけでなく、教師間の関わりも大切にしながら子供も教師も人として成長していきたいものです。

最後に、戦国時代の武将 武田信玄の言葉を贈ります。

「人は城 人は石垣 人は堀 情けは味方 仇は敵」